



とりい 鳥居はなぜあるの

かみ 神にニワトリ（鶏）をそなえるときとの止まりぎ木だった

じんじゃ さんどう しんでん まわ かき でいりくち た いっしゅ もん とりい
 神社の参道、または神殿の周りの垣などの出入口として建てられた一種の門を、鳥居とい
 います。とりい じんじゃ い くち やま かわ りょうぼ せいいき さかいめ
 鳥居は、神社の入り口のほか、山、川、陵墓などの聖域とされるところの境目にも
 た
 建てられています。ですから、とりい
 鳥居があるということは、その先に神社がある、せいいき
 聖域がある
 という目印めじるしにもなるわけですね。

とりい ほん はしら うえ かさぎ した ぬき い ほん はしら
 鳥居は、2本の柱の上に笠木をわたし、その下に貫を入れ、2本の柱をつないだもので
 す。

このとりい
 鳥居は、かみさま
 神様にニワトリ（鶏）をそなえるときとの止まりぎ木、つまりとりい
 鶏居であるとかんが
 えられています。このひょうき
 表記やごげん
 語源については、いろいろな説があり、さだ
 定まっています。

あまてらすおおみかみ いわや いわど まえ き た き うえ
 天照大神が岩屋にこもられたとき、岩戸の前に木を立てて、その木の上にニワトリ（鶏）
 と
 を止まらせて、な
 鳴かせたのがとりい
 鳥居の始まりだといひ
 う説もあります。

とりい じんじゃ なに ほんとう
 この鳥居が神社の何にあたるのかは、本当のところは、はっきりしていません。

じんじゃ まえ はったつ まち とりいまえまち 神社の前に発達した町を鳥居前町という

むかし にほん かくち じんじゃ なか ゆうめい じんじゃ おお ひとびと
 昔から日本各地には、いろいろな神社があります。中でも有名な神社には、多くの人々が
 まい
 お参りにやってきました。やがて、じんじゃ
 神社のまえ
 前に、まい
 お参りをする人
 たちを相手に
 しょうばい
 商売をする
 まち
 町ができました。このまち
 とりいまえまち
 を鳥居前町といひ
 います。おな
 同じように
 てら
 お寺のまえ
 前には
 もんぜんまち
 門前町ができました。

とりい ち す きごう かたち と
 そのほか、鳥居は、地図記号にもその形が取りいれられています。（監修・青木 国夫）

